



# 鬢遷都の非日常

---

---

Hedwig Candy Pop

---

注釈) 2006年12月24日掲載

ディーピンパクトの引退レース、有馬記念の圧勝を受けて

ここはとある街の裏路地にひっそりと佇むバー。  
仕事、家庭、どこにでもある日常に疲れた者達の  
唯一つの避難場所である。  
お気に入りの音楽を聞きながら安酒を煽りぐだを巻く。  
今日もいつものように常連客の鬘遷都（仮名）がやってきた。  
少ない小使いをやりくりしここでマスターと他愛のない話をして  
帰っていく。  
店で流れる音楽とともに少しだけ二人の話を盗み聞きしてみよう。  
なにぶん生活に疲れた酔っ払いの戯言である。  
しかし時には思わぬ話が聞けることもあるであろう。  
本日店で流れていた音楽はレッド・ツェッペリンの1st.  
ヒンデンブルグ号が墜落するシーンを目に焼き付けながら  
今宵の話に耳を傾けよう。

マスター（以下M）「いらっしゃい。どうしたの今日は日曜なのに。」

鬘遷都（以下鬘）「今日はお祝いだよ。ディープが飛んだからね。ちょっとだけ誰かと話したい気分なんだ。」

M 「鬘遷都さん、ディープが好きだったよね。儲かった？」

鬘 「いや、ポップロックは読めないよ。マスターは？」

M 「馬単ディープの2着総流し。4コーナーを回った時点で終わったよ。ありゃ化け物だね。」

鬘 「凄かったよ。なんかレース前から涙腺が緩んじゃったし。」

M 「久々のスターホースだからね。俺はあんまり好きじゃないけどさ。」

鬘 「マスターはずっとそお言っているよね。なんでだい。」

M 「ディープって強すぎるだろう。結局最後は勝つしさ。俺はもう少し脆い馬が好きなんだよね。」

鬘 「でも毎レースごとにハラハラドキドキだったよ。」

M 「それは好きだからだよ。大丈夫って思っても不安がよぎるだろう。」

鬘 「スタートは悪いし、道中すぐかかるしさ、でも最後はこうぶわっと伸びてくるんだよね。たままないよ。」

とここで身振り手振りを交えて熱く語りだす。

鬢 「やっぱりエンジンが違うよね。搭載されてるさ。もう見れないんだよね。なんか寂しいよ。」

M 「また出てくるよ。サンデーサイレンスはもういなくなっちゃたけどね。」

鬢 「弟も快勝したしね。でもやっぱり子供かなあ。」

M 「三年後、四年後？あっという間だよ。自分ら爺には。」

鬢 「楽しみが一つ奪われた感じだよ。今日の酒は嬉しいけど寂しい複雑な味だよ。」

M 「まるで娘を嫁に出す父親みたいだな。鬢遷都さん。」

鬢 「あ、それいいたとえだねマスター。」

今日も緩やかな時間が流れてく。

明日からまた重苦しい荷物を背負った日々が続くのだ。

注釈) 2006年12月25日掲載。

ジェームス・ブラウンが亡くなったことを受けて

今日はクリスマス。

ミスター・ダイナマイト JB ことジェームス・ブラウンが旅立ってしまいました。

偉大なるエンターティナーに敬意を込めて

流れている音楽は

彼も出演している ブルース・ブラザーズ サントラ盤

鬢 「こんばんわ。ウイスキーをロックで。」

鬢 「ジェームス・ブラウン死んじゃったね。ビックリだよ。」

M 「そうだね。前立腺の癌だったらしいけど。」

鬢 「この間青島幸男、岸田今日子が死んだばかりだろう。もうそういう人たちが死んでいく年齢なんだね。」

M 「それだけ自分たちも歳を取ったってことさ。」

鬢 「でもあまりよく知らないんだよね。曲もちゃんと聞いたことがないしさ。」

M 「俺もだよ。アルバム持ってないしね。うちにあるのはこれぐらいかな。」

と言ってブルースブラザーズのサントラを探し出しかけてくれた。

鬢 「懐かしいね。レイ・チャールズももう居ないんだもんな。」

M 「偉大なミュージシャン連中もみんな歳だからね。今から次々とだよ。」

鬢 「なんか寂しいね。当たり前なことなんだけどさ。」

M 「自分たちももうすぐさ。死なない奴はいないからね。」

鬢 「そうだね・・・」

おじさん二人の会話は切ないものである。

JBも今頃は星になっている頃だろうか。

## 華麗なる舞

---

注釈) 2006年12月30日

全日本女子フィギアを見て

美しき氷上の舞いは  
親父たちの心もくすぐるらしい  
今宵はリッキー・リー・ジョーンズの  
ライブ・アット・レッド・ロックス  
漂うような歌声を聴きながら  
二人の会話に耳を傾けよう

鬢 「マスター。ウイスキーをロックで」

鬢 「いや～凄かったねえ真央ちゃん。」

M 「200点あっさり越えちゃったもんな。

彼女は歴史に名を残すスケーターになるかもしれんな。」

鬢 「ミキティもがんばったよね。怪我しちゃって痛そうだったのに。」

M 「ああいうのに弱いからね日本人は。挫折から這い上がるのもね。」

鬢 「心情的にはミキティを応援しちゃうよね。」

M 「そうだね。顔もいいしき。でもフィギュアの印象って変わったよな。」

鬢 「どこら辺が？」

M 「解説聞いているとポジションがとかこれはレベル4だとか点数点数って感じ。

昔はもっと表現がとか見て美しいものだったよ。」

鬢 「でもさ、それだとジャッジが主観的過ぎてよくもめたじゃないか。」

M 「もともと競技としての技術と氷上で演じる表現力という二つの

相容れないものの組み合わせだからね。」

鬢 「たしかに自分らが見ている分にはジャンプが飛べて凄かったな  
とかきれいだなあとか」

M 「フトモモがムチュムチしてたまんないな とか。」

鬢 「そうそう。真央ちゃんのすらっと長い脚もいいけど

俺としてはミキティの太目の脚のほうが好みだね。」

M 「でも一番はおねえちゃんの舞だろ。美人だよな。ああいう子に

がんばってもらいたいな。」

おやおや

話がだいぶずれてきたようだ  
だからおやじって奴は・・・  
今日はこの辺で

## 願いごと

---

注釈) 2007年1月7日掲載

年末年始は飲む機会が多い。  
だからもちろん事故も多い。  
だが昨今の過剰報道は胸が痛いものがある。  
こおいう時こそウイスキー片手にトム・ウェイツの  
クロージング・タイム  
酔わなきゃやってられない夜もある。

鬢 「あけましておめでとうマスター。」

M 「おめでとう鬢遷都さん。正月休みはどうでした。」

鬢 「相変わらず飲んでばかりだね。変わらないよ。」

M 「飲む機会が増えるからね。」

鬢 「でもテレビをつけると飲酒運転の事故報道ばかりでさ、  
今更しないけど酒がまずくなるね。」

M 「時代の流れだね。しょうがないよ。」

鬢 「もっと厳罰化しようとしてるんでしょう。マスターのところも厳しいんじゃないの。」

M 「うちは街中だから今更関係ないよ。でもいなかの飲み屋は厳しいかもね。」

鬢 「トヨタが酒が残っていると動かない車を開発してるらしいぜ。」

M 「どこのメーカーもやってるよ。今に二日酔いも出来なくなる。」

鬢 「それは困るな。一年中二日酔いなのに。」

M 「鬢遷都さんは飲みすぎだよ。そろそろ気をつけないと。」

鬢 「歳かな。酒が抜けないよ。でも今の報道はひどいね。」

M 「確かに。」

鬢 「あれじゃあ警察で見せられるビデオみたいでさ。車に乗るのも怖くなるね。」

M 「飲酒運転も事故も減ってはきてるんだよ。厳しく取り締まってるから。」

鬢 「昔はみんなやってたもんな。」

M 「飲酒運転じたいはよくないと思う。でもあれもこれもいけない  
みたいな世の中は正常じゃないよ。」

鬢 「間違いが許されない ってのはきついよな。」

M 「だから酒が必要なのにさ。聖人君子みたいに生きられりゃ苦労はしないぜ。」

現代の厳しいストレス社会には

お気楽そうに生きている二人でも  
辛い夜があるらしい。  
迷惑をかけずに生きられる人はいない。  
人に優しい世の中になってほしいと願う。



## こんな時代だからこそ夢が見たい

---

注釈) 2007年1月13日掲載

ベッカムの巨額のアメリカサッカー移籍を聞いて

現在のスポーツ界は巨額の金が動く。

もはや純粋にスポーツを求道する心より

ビジネスとしての商品価値のほうに関心がいってしまう。

庶民はスポーツ選手に夢を見る。

だから昔のヒーローのほうにいまだに目がいってしまうのだろうか。

今宵は最近ニューアルバムを出した ザ・フォーの

アイム・ア・ボーイ

彼らもまた伝説でいて欲しかった。

鬢 「凄いねベッカム。5年300億だってさ。」

M 「狂ってるね。本人もサッカー界も。」

鬢 「でも昔はJリーグも似たようなことやってたよね。」

M 「選手のプレーより商品価値のほうが大切になってるからね。

もはや巨大なビジネス。夢がないなあ。」

鬢 「スポーツで大金が稼げれば子供たちには夢があるんじゃないかい。」

M 「程度の問題だろ。過ぎたるは及ばざるが如しさ。」

鬢 「確かにベッカムはいい選手だと思うけど300億の選手ではないよな。」

M 「自分で恥ずかしくないのかね。外国には恥の文化がないのかもね。」

鬢 「でも最近では日本にだってないぜ。たとえば中村ノリ。」

M 「打率二割そこそこ、ホームラン12本でいくら貰うつりだよ。金返せよ。」

鬢 「ほんとほんと。成績がいい時に上げろ上げろ騒ぐなら悪い時は潔くしろよな。まったく。

」

M 「どいつもこいつも一緒だけだな。」

鬢 「サラリーマンなんて業績がよくても給料が上がらない時代なのにさ。」

M 「はっはっ つらいね鬢遷都さん。」

辛い時代だからこそスポーツ選手に夢を見る。

夢見る選手が金金金では寂しい。

おっと いまや庶民も金金金か。

注釈) 2007年1月22日掲載

あるある大辞典でのデータ捏造を受けて

最近は何でもかんでも情報化社会である。

もちろん便利なのだが

人によっては情報をコントロール仕切れなくなりつつあるようだ。

今宵店で流れているのはスティックス

ミスターロボット

昔はこのデジタルな音が近未来みたいに思えたものだ。

今聞けばとてもアナログである。

鬢遷都 「またテレビで不祥事だね。」

マスター 「あるある大辞典のことかい？」

鬢 「そうそうデータ捏造ね。テレビで謝罪番組までやってたよ。」

M 「いまは健康ブームだからね。そおいう番組が多いよ。」

鬢 「みのもんたの一言でスーパーで食材が売り切れになっちゃうんだもんね。」

M 「あるあるも似たようなもんでしょ。影響が大きいから今回のような事が起きるのさ。」

鬢 「でも今は科学的検証がなされてるからさ、昔のような  
訳の解らないりんごダイエットとかよりもいいよね。」

M 「みんなデータさえ出されれば信じるからね。楽だよ。」

鬢 「そりゃあ証明されたほうがいいじゃない。正しいわけだしさ。」

M 「科学なんて正しくないぜ。いんちきさ。」

鬢 「いんちき？ どおいう意味だい。」

M 「科学なんて今現在正しいだろう と証明されてるに過ぎない。」

鬢 「ん・・・」

M 「今日の正しいは新しい証明が出てきてそっちのほうが正しいとされた瞬間から  
間違いになってしまうのさ。」

鬢 「・・・」

M 「つまり世の中で正しいと言われていることの全てはいつひっくり返っても  
おかしくない不安定な足場に立っているようなものだよ。」

鬢 「でも絶対的にこれは正しいものだってあるわけだろう。」

M 「それはそう思ったほうが解りやすいだけで正しいものなんてこの世に一つもないと思うよ。  
」

鬢 「よく解らないな。頭を使いすぎて変な酔い方しそうだ。」

おっと今日のマスターは酔っているのかな  
話のつかみどころが見えてこないな  
あまり小難しい話をするよりも  
素直に酒に酔おう

注釈) 2007年1月29日

山本KIDの北京オリンピックの挑戦を見て

何事もチャレンジする人たちは美しいものである。

山本KIDの北京オリンピックへの挑戦はおやじたちも気になるらしい。

今宵は イギー・ポップ

ノーティ・リトル・ドギー

を聴きながらチャレンジする意義を考えてみよう。

鬢「KID負けちゃったね。あっさり。」

M「真剣勝負だからね。しょうがないんじゃない。」

鬢「でもあんなものなのかなあ。すげえ強いつてイメージがあったのに。」

M「競技が別物だからね。総合格闘技とレスリングは。ブランクもあったしね。」

鬢「でもそんなものを超越して欲しかったのにな。ちょっとがっかり。」

M「そう。カッコいいと思うよ。なかなかあんな風には生きられないし。」

鬢「でもそんなにオリンピックに出たいものなのかな。もう十分に有名なのにさ。」

M「アスリートにとっては純粋にその競技の頂点を目指すってことにおいては  
たまらないんじゃないかな。」

鬢「山本家ってオリンピックに縁がないよね。みんな有名なのにさ。」

M「そうだね。でもKIDはあきらめてないんじゃない。」

鬢「これで勝ったら凄いことなんだよね。」

M「いまはプロアマとわずオリンピックに出れるからプロで活躍している人が  
夢ももう一度ってオリンピック予選にチャレンジするけどまず駄目でしょ。  
そのくらい難しいことなんだけどあれだけ有名で逆に負けたら何言われるか  
解らないのにさ、それも覚悟の上でやってるんだから凄いと思うけどね。」

鬢「確かに世間は勝って当たり前みたいに思っているかも。」

M「自分を神の子なんていってるしね。負けて欲しいと思ってる人も多いんじゃないかな。」

鬢「日本人はビックマウスは嫌われるからなあ。」

M「でも今回は言っていないんじゃない。この挑戦がどれだけ大変なことかは本人が一番良く解っているんじゃないかな。」

鬢「勝てるかね。」

M「さあね。でも解らないから面白いんだろ。」

人間先のことは解らない。

だからこそ人は可能性を信じて努力するのだ。  
努力する姿に人は心を打たれるのだろう。

## Love,Love,Love

---

注釈) 2007年2月5日掲載

サッカーの暴動事件を聞いて

世界は暴力に満ちている。

何故人々は争いごとをやめようとしないのであろうか

本日はローリングストーンズ

ベガーズ・バンケット

を聴きながら

平和について考えてみよう

鬢遷都「またサッカーで暴動が起きたね。」

マスター 「そうだね。定期的に起こるよな。」

鬢 「熱狂するのはわかるけどさ。なんであんなっちゃうのかね。」

M 「世の中にスポーツは沢山あるけど死人を出すほど狂うのはサッカーぐらいだからね。」

鬢 「阪神ファンもスーパーボールも熱狂するけどサッカーは特別か。」

M 「なんかフェロモンが出るんじゃないの。あるあるとかで調べりゃいいのにさ。」

鬢 「捏造されちゃうぜ。でもやっぱりおかしいよな。こんなのはさ。」

M 「暴動を起こすのってイギリス、ドイツ、オランダ、イタリア。あいつらは少しおかしいのさ。」

鬢 「サッカーは国と国との戦争って言われてるよね。あいつらは争いごとが好きなのかな。」

M 「基本的に西欧人は戦争が好きさ。侵略者の末裔だからね。」

鬢 「もっとこうみんな仲良くみたいにはならないのかな。」

M 「今は西欧の経済、物質、そして個人。自分さえ良ければという社会だから。」

鬢 「日本も最近そうだよな。」

M 「だって日本はいまや東洋じゃなく西欧だもの。」

西欧思想が正しい

東洋思想が正しい

きっとどちらも正しいのだろう。

本当は沢山居る神々たちがちょっとした気まぐれで

人々たちを弄んでいるだけかもしれない。

明日目が覚めたとき

この世から争いごとが消えてなくなればいいのに

それこそ神様の気まぐれによって

## 今考えるべきこと

---

注釈) 2007年2月12日

過剰になりつつあった地球温暖化情報を受けて

最近やたら環境問題ばかり取りざたされている  
地球を守るのは大事だが  
なにかみんな足元が厳かになってわいないだろうか  
こういうときにはジミー・スコットの  
ロスト・アンド・ファウンド  
を聴きながら人にとって大切なものとは何かを  
考えてみようではないか。

鬘遷都 「今年の冬は暖かいね。全然雪も降らないし。」

マスター 「都心の初雪が降らないのが47年ぶりの記録更新だってさ。」

鬘 「今年は降りそうもないね。降らない年なんてあるのかな。」

M 「観測史上ないらしいけどね。」

鬘 「地球温暖化の影響か。未来はどうなっちゃうのかね。」

M 「テレビでもそんなことばかり言ってるな。知識人といわれるコメンテーターとかさ。  
みんな自分勝手だね。わがままだよ。」

鬘 「みんなが今のままやりたいようにしていたら地球はどんどん駄目になっていくんだろう。  
しょうがないじゃないか。」

M 「温暖化はもう止まらないよ。既に手遅れさ。」

鬘 「そんなことはないだろう。みんなで意識していけばさ。アメリカだって最近  
変わってきたっていうし。」

M 「先進国がどんなに注意してもたかが知れてるよ。これから中国とインドが  
あつというまに発展して経済大国になりジ・エンドさ。」

鬘 「だから中国やインドにも環境の大切さをきちんと教えてそうならないようにしなきゃ。」

M 「そういうのを金持ちのわがままっていうのさ。誰だっていい暮らしがしたい。だからがん  
ばる。当たり前だろう。貧乏人が金持ちになろうとするのをどうやって説得するんだい。しかも  
自分は既に金持ちなのに。」

鬘 「でも地球が駄目になったら金持ちになってもしょうがないじゃないか。」

M 「貧乏人を説得して我慢してもらって自分たちはそのまま。これが先進国さ。  
テレビのコメンテーターも一緒。目上から物を見て言いたい事を言っているのさ。」

鬘 「それはそうかもしれないけど。じゃあ何もせずにこのまま朽ちてくのかい。」

M 「いつかはそうかもしれない。でもその日まで思いやりを持って生きていくことが大事なんじゃないかな。」

鬢 「思いやりね。最近はずち組、負け組。みんな生き残るのに必死で他人を考へる余裕なんてないよ。」

M 「環境問題もあるいは人権問題も勝ち組の余裕がある奴の戯言さ。人助けをしている自分に酔っているだけだ。まあ人間には上も下もいるからそういう勘違い人間も必要だがね。」

鬢 「勘違いして俺も助けてくれないかな。」

M 「もっと貧乏じゃないとね。助けがいないだろ。」

とマスターは笑ってウイスキーを注いでくれた。

人は遠くのことは見えるのに身近なものは見えないものだ。

環境問題を唱へ自分達が出来ることを と叫ぶのは気持ちがいいのだろう。

でも落ち着いて自分の周りを見渡せば今すべきことが他にあるのではないだろうか。

まず自分の身近な人にやさしくしてみませんか。

愛こそが地球を救う

とヘドウィグは思ふのです。



## もっと身近なことに向き合って

---

注釈) 2007年2月22日掲載

世の中は勘違いを繰り返し  
それを重ね合わせたようなものである。  
今宵はスティービー・ワンダー  
イン・スクエア・サークル  
おやじの戯言に耳を傾けてみよう

鬢遷都 「マスター知ってる？最近の小学校はなオープンスペースとかいって  
全教室があけっぴろげらしいよ。」

マスター「最近テレビでやってるね。なんか偉い教授が発案したらしいよ。」

鬢 「いじめもなくなるしいい事だらけらしいよ。だんだん増えてきているんだって。」

M 「ふざけるよまったく。俺が小学生だったら不登校だね。」

鬢 「マスターだったらそうだろうね。俺もちょっとやだなあ。」

M 「生徒がみんな社交的だって考えるなよ。明るい奴ばかりだったらどんな教室だって  
いじめなんて起きないよ。」

鬢 「なんで訳のわからない偉い先生が出てきてこれでよくなりました なんていうのかね。」

M 「そうしたいよの。大人は。昔は良かったって言うのが決まり文句でさ。大体こんなこと  
考える奴はいじめっ子だったんだよね。苛められる奴の気持ちなんてわかるわけねえよ。」

鬢 「そうそう。結局成功者の戯言だよな。。」

M 「殺してやれよまったく。」

鬢 「過激だねマスター。いじめなんて子供だけの問題だけじゃないしさ。俺なんか会社で苛め  
にあってるもの。」

M 「鬢遷都さんそれは辛いなあ。でも俺なんて未だに世間に苛められてるぜ。」

現代は情報化社会である。

だからこそ報道する側の責任が大きいのだが

都合のいい勘違いによって世の中はごまかされているのである。

誰かが正しいと思う裏側には必ず相違反するものが存在する。

だからこそ言葉を発することに責任があるのだが・・・

責任 滅亡の危機にある言葉である。

とても大切な言葉なのだが・・・

注釈) 2007年2月28日掲載

月刊少年ジャンプ休刊を聞いて

みなさんは言霊という言葉を知っていますか？

素晴らしい言葉を口に出して発声すること。

言葉の響きそのものに神々の力があつたということ。

悪い言葉は言っちゃいけない という感覚であること。

人それぞれみんな違うと思います。

今宵はジミ・ヘンドリックス

エレクトリック・レディランド

言葉について考えてみませんか。

鬘 遷都 「こんばんはマスター。ウイスキーをロックで。」

マスターが目分量でいつものように少し多めにグラスに注ぐ。

鬘 「マスター知ってる。月間少年ジャンプが休刊だってさ。」

M 「本当に？そういえば昔ほど漫画読まなくなったなあ。」

鬘 「ん～さすがに俺も一冊丸々は読まないな。読みたい物だけ立ち読みで。」

M 「一応少年漫画だしね。最近は雑誌そのものが売れなくなってるらしいし。」

鬘 「そういえばスポーツジャーナリズムが死に絶えてスポーツ雑誌そのものがなくなってきているってなにかで読んだな。」

M 「日本人のジャーナリストはみんな糞だけど特にスポーツジャーナリストは酷いもの。」

鬘 「なんかね。勝っては騒ぎ。負けては騒ぎ。目立つことばかり優先でスポーツに対するこだわりや愛がないなあ。」

M 「選手と仲良しこよしで密着取材している奴やただゴシップネタだけ追っているもの。どっちかだね。」

鬘 「なんか本で読んだんだけど昔のジャーナリストは選手に対して近からず遠からずインタビューは戦いだから なんて言ってたな。」

M 「沢木耕太郎だっけ？読んだことがあるようなないような。」

鬘 「いわゆるプロ意識が欠如してるのかな。」

M 「国民性じゃないの。ゴシップ大好きでしょう。イギリス人もだけど。」

と言って二人で笑う。

鬘 「政治家も口滑らしちゃあ叩かれ大変だもんね。」

M 「生む機械ってか。いいじゃねえか。揚げ足ばっかとりやがって。もっとひどいとばっかり言ってるじゃんか自分らもな。」

鬘 「チビ、デブ、ハゲ、 ブス、汚い、ウザい、死ね この世は差別用語だらけだからね。」

M 「そう、みんな人知れず人を傷つけているのに自分のことは棚に上げて他人は攻撃するのさ。」

鬢 「そうだよな。もう少し人に対して愛が必要だよな。」

話が盛り上がり空になったグラスを物欲しそうに何度も何度も口に運ぶ鬢遷都。

M 「ああ鬢遷都さん、お金がないならそれで最後ね。うちも厳しくてさ。」

言うは易し行なうは難し

人にやさしくする為には自分に余裕がないと難しいものである

精神的にも　そして金銭的にも

余裕がない時代だからこそ

歯を食いしばって見栄を張りたいものである

誰かにやさしくする為に

## 素敵な笑顔に囲まれて

---

注釈) 2007年3月6日掲載

テレビ番組でホワイトライオンを見て

今全世界に絶滅の危機に瀕している生き物は16000種もいるそうである。

その中にはみんなも知っているトラやライオンも含まれる。

今宵はピンク・フロイドの

「原子心母」

共存とはなにか？

を考えてみよう。

鬚遷都「マスター レオって実在するんだな。初めてみたよホワイトライオン。」

マスター「テレビでやってたやつか。俺も見たな、ちょっとだけ。」

鬚「なんか感動。手塚治虫ってやっぱりすごいんだな。」

M「別にレオじゃねえじゃん。いっぱい居たし。それに手塚治虫がレオを画いた70年代には発見されてなかったんでしょ。伝説をモチーフに作り上げただけだろ。」

鬚「なんだよ夢がねえな。絶滅の危機に瀕してるんだぜ、ホワイトライオンは。」

M「別にホワイトライオンじゃなくてもライオン自体が絶滅の危機だけどね。」

鬚「そうなの、百獣の王なのに。」

M「だって人間が狩るだろ。絶滅してるのはほとんど人間が原因じゃないの。」

鬚「テレビでは動物の楽園を作るためにみんな一生懸命だったよ。」

M「気持ちがいいからね。弱いものを手のひらで転がすのわさ。」

鬚「何だよそれ、相変わらず悪魔だな。」

M「本当のことだろ。本当の楽園は人間が絶滅してからさ。その頃にはライオンもトラも居ないかもしれんけどね。」

鬚「そんなに人を絶滅したいのかねえ。せっかく人間と動物が共存できる楽園を作るいい番組だったじゃんか。」

M「人間が追い出されていたじゃないか。一部の都合でさ。」

鬚「それを言われると。多少の犠牲は とはさすがに言えないな。」

M「別に。それが自然のことなんだ。何かを大切にするには同じように大切な物を犠牲にすることもある。それがわかっていればいいのさ。最近は何かわからない奴が多いけどね。」

鬚「何か上手いこと言いくるめられた感じだけど。」

M「いいじゃないの。子供達幸せそうだったでしょ。素敵な笑顔だったよ。まぶしいくらい。」

鬚「写真良かったよね。目がきらきらしてて。」

M 「ああいう写真は上手い下手じゃないからね。すつとこっこいの彼女よかったよ。雰囲気あるね。」

鬢 「綺麗だよ。なんて名前だっけ？」

M 「香椎由宇だよ。」

鬢 「知ってるんだ。ちょっとビックリ。」

少し照れたようにマスターは視線を逸らした。

共存とはお互いが存在できる状態ならそれでいいのである。

どちらにも都合がいいほうがメディア的には受けがいいかもしれない。

幸せはそれだけではないこと子供達の笑顔が教えてくれているのだ。

注釈) 2007年3月16日掲載

西武裏金事件を見て

いやな世の中だと思いませんか？

格差社会、いじめの問題などいろいろ取りざたされている昨今ですが

はたして本当はどこに問題があるのでしょうか？

今宵は ノラ・ジョーンズ

come away with me

を聴きながらゆっくりとした時間を取り戻しませんか。

鬢遷都 「最近西武の裏金問題ばかりやってるね。」

マスター 「いやだね。西武の裏金なんて今に始まった事ではないし、いまさら。」

鬢 「昔の人間なら誰でも知ってるよね。西武はそうやって強くなったんだし。」

M 「もちろん西武だけじゃないけどさ。西武が一番有名だったけどね。」

鬢 「なんかさみんなお金が欲しいくせに自分以外にお金が廻るのはやたら過剰に反応するんだよな。」

M 「そうだね。今は自分が幸せになれないなら他人は不幸になってほしいみたいな感じだよ。」

鬢 「この間自殺した小児科医の奥さんが起こした裁判やってたでしょ。」

M 「ああ見た見た。」

鬢 「コメンテーターがさ日本人は無責任にならないとこおいう事故は無くならないって言っててさでもそれを言っているテレビがさ今の人達は無責任です、もっと社会に対して責任感を持ってくださいみたいな報道ばかりしているんだよね。」

M 「その通りだね。今はきちんとしていないといけないみたいに周りから見張られているようで世の中の人たちが全員人の揚げ足取りばかりしている。」

鬢 「最近みんな生活に疲れているようでさ、ため息ばかり聞こえてきそうな社会さ。」

M 「今って格闘技ブームだろう。夜中のテレビでピーター・バラカンが言ってたんだけどね、パンクラチオンってあったろ。古代ローマ時代の。」

鬢 「総合格闘技の原型でしょ。」

M 「そう。そのパンクラチオンはさローマ帝国の滅びる頃に流行ったらしくてね。今の格闘技ブームと現代社会が重なるような気がするんだってさ。」

鬢 「おお、そう言われるとなんか納得できるな。」

M 「そおだよ。いつも俺の言っている人類滅亡へのカウントダウンが始まっているっていう意味が理解できるだろ。」

鬢 「いやそれは理解できないが。でもいやな社会だ。」

M 「ん～理解できないか。次はもっと説得できる材料を探すよ。」

鬘 「それより幸せになれる材料を探してよ。」

嫉妬、妬み、蔑み

嫌な言葉だと思いませんか？

思いやり、助け合い

素敵な言葉だとは思いませんか？

あなたはどちらを選びますか？

## 涙を流す時

---

注釈) 2007年3月27日

世界女子フィギュア選手権を見て

みなさんはどんな時に泣きますか？

嬉しい時

悔しい時

悲しい時

今宵は ジギー・スターダスト

ピンナップスを聴きながら

涙について考えて見ましょう。

鬢遷都 「ミキティ勝ったね。感動したよ。」

マスター 「そうだね。まあ一度へこんで這い上がるのはやっぱりいいよね。」

鬢 「世界選手権の最終滑走者で舞台が日本。僅差の逆転勝ち、これ以上のドラマはないね。」

M 「実際はSPでリードしてたから逆転ではないけどさ。」

鬢 「そんなこというなよ。気分的には逆転勝ちじゃんか。」

M 「まあね。ありや泣くよな。」

鬢 「うれし泣きっていいよね。一生懸命やったものだけが味わえるものだな。」

M 「でも悔し泣きもいいぜ。去年のパリーグのプレーオフ憶えてる？」

鬢 「新庄の涙？ありや嬉し涙だろ。」

M 「違うよ。松中の涙さ？」

鬢 「あれもいいな。人目もはばからず号泣だもんな。」

M 「あの時のホークスはさ、王監督のためっていう感じが出てて斉藤や松中なんか自分を責めちゃてさ、情けなくて悔しくてすまなくてって、人を思う涙も美しいよね。」

鬢 「ああいいね。やっぱり王監督って偉大だよな。選手として偉大だったのはもちろん其処まで慕われるのは人としても凄ってことだよな。」

M 「辛い時期もあったろうけど今はいい顔しているものね。今年のソフトバンクは強いんじゃない。選手の一体感が他のチームと違うもの。」

鬢 「やっぱりスポーツっていいなあ。嬉しくて泣き、悔しくて泣き、泣くほど何かに懸命に取り組みたいよね。」

M 「でも最近は涙腺が緩いからな。一生懸命にならなくてもすぐ泣けちゃうんだよね。」

鬢 「年取るって悲しいな。」

M 「悲しくて泣けてくるだろ。」

泣くという行為はストレス解消になるらしい。



感動の涙を流してもいいし

もらい泣きをしてもいい

でも一生懸命の後の悔し涙は一生心に残る分だけ美しいような気がする。

誰かの為に泣いてみたいものである。

## 拳の中の大切なもの

---

注釈) 2007年4月12日

亀田の試合の後親父がジャッジに文句つけたことについて

最近の世の中はお金が全て  
もっと他に大切なものはないのだろうか  
今宵は フランク・ザッパ  
シーク・ヤブーティ  
ザッパの世界に酔おうではないか。

鬢遷都「また亀田のお父さんが揉めているらしいね。」

マスター「良くやるよね。ボクシングのジャッジは曖昧で解りにくいからな。」

鬢 「この間の新井田対高山の試合も揉めてたしね。」

M 「初戦ミニマムの試合だからね。どっちが勝っているかなんて主観の問題じゃねエの。」

鬢 「亀田の試合もスカッとしない試合なのにTBSだけがうるさくてさ。」

M 「メディアは今更どうしようもないだろ。自分の仕事にプライドをもってないのよ。」

鬢 「でもさダウンしたところで試合をストップしないことを怒っていたけど  
結局フルラウンド戦って倒せないんだから言っていることがおかしくねえ。」

M 「何時からだろうね、ボクシングが戦いからスポーツに変わったのは。」

鬢 「昔はどっちが強いのかを証明するための殴り合いだったよな。」

M 「今はプロモーターがいて巨額の金が動くイベントだろ。アメリカは特にだけど  
亀田の試合なんかもビジネスの側面が強いね。」

鬢 「相手がみんな弱く見えるよな。」

M 「実際戦績だけのロートルばかりだし、まあ一般のファンを取り込まないと  
いけないんだろ。今ボクシングは人気ねえしな。」

鬢 「たしかにK-1やプライドの方が人気があるし、キックや寝技がある総合格闘技の方がボクシ  
ングより強いのをみんな知っているしね。」

M 「でもやっぱりボクシングが好きだけどね。したいことも我慢して減量してトレーニングを  
して、たいした金にもならないのに他人と殴りあう。これ以上ストイックなスポーツは  
ないだろ。」

鬢 「拳闘だもんな。明日のジョーの世界だよ。」

M 「ただ自分が一番強いと証明するために戦う。そんな選手が見たいなあ。」

お金はもちろん大事だ。

多いにこした事はない。

でもお金を得るために失ってしまったものに惹かれるのは何故だろう。

貧乏人の僻み。

負け犬の遠吠え。

何を思われても大切にしたいものがある。

そおありたい。

注釈) 2007年6月11日

桑田のメジャー昇格を聞いて

最近のおやじはカッコいい。

桑田真澄がメジャーに昇格した。

背番号は18

こんな夜は

サンタナの天の守護神を聞きながら

感動を共有しようではないか

鬢 「マスターバーボンをロックで。」

M 「ご機嫌だね。鬢遷都さん。」

鬢 「桑田がメジャーに昇格したよ。こんな夜は一人で飲むより誰かと語り合いたいじゃないか。」

M 「最近の成績が良かったからそのうち上がるなどは思ってたけどね。」

鬢 「だんだんと歳を感じてきてるじゃない最近。そんななか同世代のスポーツマンが未だにがんばってるのを見るとなんか応援せずにはいられないよね。」

M 「解る解る。昔はカッコつけやがってとか思っててさスポーツ選手はみんな好き勝手にやりまくってんだろかななんて僻みもあったんだけど自分の子供みたいな若い選手相手にがんばってるのを見るとね。」

鬢 「昔凄かった奴をほど衰えて実感するしもどかしいじゃない。だけどそれでもしがみついているのを見るとこいつら本当に好きなんだなって感動するよね。」

M 「昔はすぐ引退したんだよね。これは自分じゃないって思うものな。」

鬢 「それも解るよね。大した事ない選手にいい様にやられる自分が悲しいもの。」

M 「最近トレーニングや肉体的ケアの発達もあるけど対相手じゃなくて対自分へのプライドが見える選手が増えてきたよね。」

鬢 「今の自分に出来ることをがんばる。なんかお前も今がんばるんだよって言われてるみたいでさ。」

M 「昔俺はじゃなくて今だよね。」

鬢 「そうなんだよな。解ってはいるんだけどね。」

M 「されど何々って言うだろ。」

鬢 「うん。」

M 「あれも取り方だと思うんだよね。人間自分しだいで肯定的にも否定的にもなれるんだよね。」

おやじ達の話はつきそうにない。

時間は戻らないのだから常に今を大切にすることを

最近の歳を取ったスター達は言葉ではなく身体で表現しているように思う。

自分は衰えた・・・されど・・・

続く言葉は自分で見つけるのだ。